

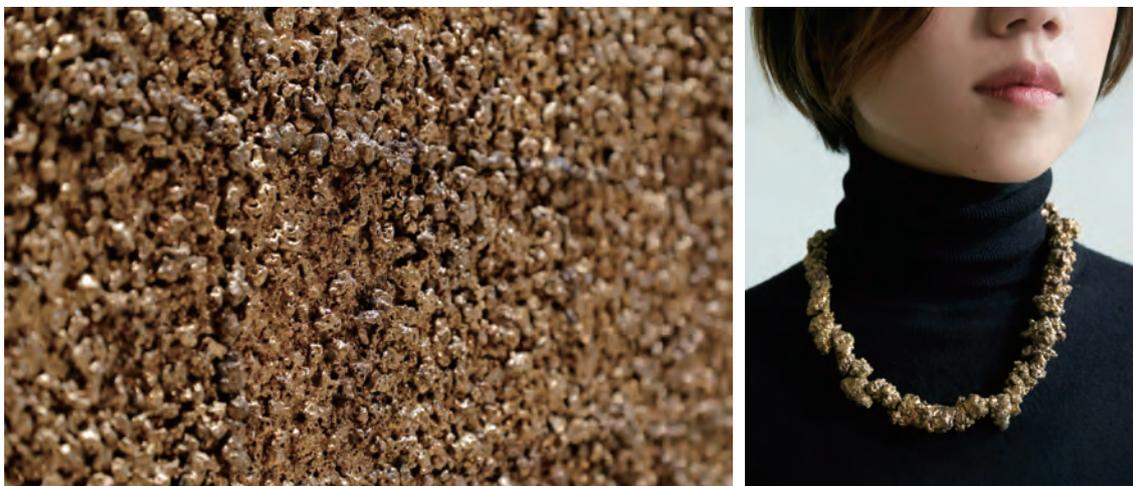
## 井原宏路『made in ground』(2019年)

H300 × W400 × D50 [cm]、焼成したミミズの糞塚に金彩 (Photo: 堀口宏明)

私はここ数年間、足を運んだ先々でミミズの糞塚を採取しながら作品を制作している。ミミズの糞塚は土であり、排泄物であり、生き物がそこに生きていた証である。私はそんな糞塚をミミズが造った彫刻と捉えることで、彫刻の定義とその可能性について考えている。

私とミミズの糞塚出合いは2017年から2018年にかけて、イタリアで一年間の在外研修を行った際に、たまたま近所の公園で見つけたのが始まりだった。その土から隆起する不思議な突起は、彫刻家という“カタチ”を作る仕事をしている私にとって、なんとも形容しがたい魅力的を帯びていた。その後、日本、ドイツ、アメリカなど行く先々で、ミミズの糞塚を採取しているが、その形は生息しているミミズや、それぞれの土の性質や環境によって確かに違っていた。その違いを美術品のように形や色から感じるたびに、その土地とその文化について考えを巡らすようになった。

表紙で使用されている「made in ground」と名付けた作品は、ミミズの糞塚をそのまま陶芸の窯で焼成し釉薬をかけて陶器にした作品である。糞塚は放置すればいずれ崩れ、土に還るが、焼成することで陶器のように普遍的なマテリアルに変化する。それは生き物が作ったカタチが循環の中から切り離されミミズが作った芸術作品として残り続けることでもある。表面の金色は釉薬の上に仕上げとして本物の「金」を焼き付けている。「金」は人類にとって最高級の素材だが、地中から見出されたという意味では、糞塚と共通点がある。相反するイメージの「金」と「糞塚」を掛け合わせることで、新たな意味を生み出し、ミミズの生きた記憶を彫刻にした。



(左) 部分拡大図 (Photo: 堀口宏明)、(右) jewelry in ground -gold pendant (金彩したミミズの糞塚 / 金チェーン) (Photo: 上村可織)

井原宏路 [Koro Ihara] <http://koroihara.com/>

彫刻家。1988年大阪府生まれ。2011年多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。2013年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2017-18年平成29年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてイタリアにて研修。2016年トーキョーワンダーウォール2016「トーキョーワンダーウォール賞」、2017年第20回岡本太郎現代芸術賞「岡本敏子賞」、2019年TOKYO MIDTOWN AWARD2019「グランプリ」受賞。生き物の生きた証や痕跡など探し出し、それらに伝統的な彫刻技法を掛け合わせることで、新たな可能性を探す作品を展開している。